

対談

世界の海に挑む海洋冒険家

白石 康次郎

2010年度 社団法人浜松青年会議所 第60期理事長

山崎 貴裕



事業紹介

2010 HAMAMATSU JUNIOR SHIP

はままつ少年の船



公開例会

次世代創造
フォーラム2010

若手経営者
向けセミナー &
大名刺交換会

献血推進活動

3月度例会 入会式

移動オーケストラ教室

JC Hamamatsu wave 2010 Vol.2

社団法人浜松青年会議所 広報マガジン
[はままつJCウェブ]

温故
創新

笑顔溢れるまち
浜松の創造

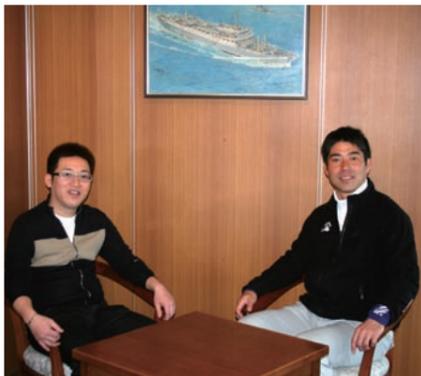
<http://www.hamamatsujc.or.jp/>

ホームページもぜひご覧ください!



JCとは? 青年会議所(JC-Junior Chamber)は「明るい豊かな社会の実現」という同じ理想と使命感を持つ若い世代の人々を広く集め、友情を深めつつ、強く影響しあい、刺激しあって若さが待つ未来への無限の可能性を自分たちの手で効果的に描き出し、青年の情熱から生まれる果敢な行動を結集すべく組織された団体です。





天如水!

海に出ると、地球を包み、動かす、大いなる意思を身近に感じます。この大いなる存在が私にとつての天です。天の理を感じ取り、与えられた天命をまっとうし、地球と自分が少しでも一体となること、それが私の理想です。この理想に近づくための指針が、水のごとくあれ

白石康次郎氏ブログより



海洋冒険家 2010はままつ少年の船 特別講師

白石 康次郎氏



世界最年少単独無寄港世界一周を達成
「Gitana13」サンフランシスコ～横浜間 世界横断記録樹立

山崎 貴裕

2010年度
社団法人浜松青年会議所
第60期理事長

山崎 最初はどのようなことかと思いましたが、港でのテークカットや夜の星座教室もできたので本当に良かったです。ここ数年、風や雨の影響で出来ないことが多かったの

白石 私の場合は対象年齢がもう少し上の子供たちの訓練をすることがあります。今回は「仲間作り」「笑顔」などを目的にした船です。いろいろな船にのりこめ、子供たちに海の素晴らしさを伝えたいと思っています。出航までの天候が悪く海も荒れていましたが、今はとても穏やかですね。

山崎 そうなんです。テークカットは元々、サンフランシスコで日本人が始めたそうです。最近では「京都検定」など「〇〇検定」という中に船の検定試験もあるんですよ。船や海についてはいろいろな逸話があります。レース後にシャンパンでお祝いの場合は、最初に自分は飲まずにまずは海へシャンパンを流します。これはまずは海の神様へ感謝をするという意味があります。ほかに梅干の種を海へ捨てるという風が吹くという逸話から、カッター訓練のときは種を捨てずに、ヨットで風が欲しいときは海へ捨てるなど、子供たちと一緒に船や海のクイズ大会をやっても楽しいかもしれません。

白石 そうですね。テークカットは元々、サンフランシスコで日本人が始めたそうです。最近では「京都検定」など「〇〇検定」という中に船の検定試験もあるんですよ。船や海についてはいろいろな逸話があります。レース後にシャンパンでお祝いの場合は、最初に自分は飲まずにまずは海へシャンパンを流します。これはまずは海の神様へ感謝をするという意味があります。ほかに梅干の種を海へ捨てるという風が吹くという逸話から、カッター訓練のときは種を捨てずに、ヨットで風が欲しいときは海へ捨てるなど、子供たちと一緒に船や海のクイズ大会をやっても楽しいかもしれません。

山崎 そうですね。せっかくなので船に乗って航海しているので子供たちにとっても身近に感じられますよね。チームリーダーにもそういう話を聞かせてもいいかもしれません。

白石 子供たちを率いているチームリーダーもがんばっていますね。



Profile 海洋冒険家 **白石 康次郎**
1967年東京生まれ鎌倉育ち。二十五歳でヨットの単独無寄港世界一周を果たし、史上最年少記録を樹立した。2007年5月には単独世界一周ヨットレース「50 OCEANS」クラスIで2位でゴール。日本人初参戦のクラスIで快挙を達成。

- 1993～94年 Spirit of yukohにて世界最年少単独無寄港世界一周達成。(176日間)
- 1997年 「レイドゴロワーズ」南アフリカ大会出場。日本人最高11位
- 1999年 「伊豆アドベンチャーレース」プロデュース
- 2006～07年 「VELUX 5 OCEANS」クラスI 2位入賞
- 2008年 双胴船(Gitana13)にてサンフランシスコ～横浜間の世界記録更新

山崎 そうですね。子供と接する我々大人が真剣でなければ子供たちには伝わりませんからね。どの組織でもそうかもしれませんが、最近では叱る大人、怒る仲間が減っているように感じます。自分に自信がなければ叱ることはできませんし、あまり他人の子供に干渉しても、という風潮からか、いわゆる近所のうるさいおじさんおばさんが減っているのかもしれないですね。けれども「はままつ少年の船」のような特殊な

山崎 そうですね。子供と接する我々大人が真剣でなければ子供たちには伝わりませんからね。どの組織でもそうかもしれませんが、最近では叱る大人、怒る仲間が減っているように感じます。自分に自信がなければ叱ることはできませんし、あまり他人の子供に干渉しても、という風潮からか、いわゆる近所のうるさいおじさんおばさんが減っているのかもしれないですね。けれども「はままつ少年の船」のような特殊な

白石 私も小さな船を借りるのに苦労しますが、これだけ大きなふじ丸を借りるのも大変でしょう。

山崎 そうですね。そのために乗船者1名につき約4万円という乗船費をいただいています。100年に1度の大不況と言われるこの時代に、決して安くはない乗船費ではありますが、乗っていただいたお子さんにそれ以上のものを吸収成長していただき、仲間や思い出をたくさん作って下船していただければと思います。毎年いろいろな研修を考えています。

白石 先ほど伺ったのですが、一度乗船した子供たちのリピート率が高いそうですね。素晴らしいですね。

山崎 ありがとうございます。この「はままつ少年の船」は今年が記念すべき第20船目になります。(社)浜松青年会議所の青少年育成事業として、ほぼ毎年春休みに小学校3年生～6年生の団員を募集して研修を行っています。団員の募集などさまざまな苦労はありますが、20年のノウハウを引き継ぎながら続けていきます。

白石 ありがとうございます。「はままつ少年の船」は20年も続いているんですね。素晴らしいですね。私もぜひ乗りたいですね。

山崎 白石さんの研修を受ける子供たちのいきいきとした姿がとても印象的でした。

白石 よろしくお願います。

子供たちに海の素晴らしさを伝えたい

山崎 今回はお忙しい中ご乗船いただきありがとうございます。よろしくお願います。



うことが起きるといことを想定内にしておくのです。『諸行無常』という言葉のように、世の中すべてのものは常ではない、すべては変化するということです。必ず変化するの、人間にはこうあって欲しいという欲が出てくる。それを望むから苦しんだり慌てたりするのです。私の場合は、自然は変化するものだと考えています。人間の希望や都合は海には通用しない。相手が子供だからといって自然は手加減してくれません。どんな場合でも欲ではなく、真実を見ること、変化を捉えることで、的確な判断できると思います。

山崎 現代はテレビや新聞、インターネットなど情報が溢れている時代です。子供たちの方が私たちが大人より情報が多い場合もあります。大人がまずお手本となることが一番ですが、子供たちには溢れる情報に惑わされずに、まっすぐ素直に成長していくて欲しいと思います。そして、「はままつ少年の船」で得たものが困難に直面した時にも確かな判断の出来る逞しい人間に成長する一役を担えればと思います。本日は本当にありがとうございました。

山崎 今後、レースの予定などはありますでしょうか？
白石 今年の10月にレースがありますが、この景気では難しいので3年後には世界一周レースに出たいと思っています。「はままつ少年の船」も大変だとは思いますが、レースには本当にお金がかかるんですよ。前回は2億5千万円集めました。けれども目標は6億円で、それだけあれば優勝を狙える体制を作ることができます。けれど半分以下しか集まらない。船のセーラーを中古で用意したり、譲ってもらったり、いろいろな情報を必死で集めるんです。私の場合はエンジニア6名とマネジメントなどを合わせて15~16名のチームですが、自分で何でもやらなければなりません。イギリス人やフランス人の年上のチームメイトに囲まれていると、いろいろな意見を出してくれます。ほとんどが自分と違う意見なのですが、タイプの違う人間を周りに置いておいた

山崎 常には緊張感を持っているということですね。
白石 そうですね。リラックスは必要だけれど常に五感を働かせて緊張状態を普通持っていることが大切です。「まさかこんなことが」とい



Profile 有限会社春華堂 株式会社うなぎパイ本舗 取締役副社長 **山崎 貴裕**
1974年静岡県浜松市生まれ。大学卒業後、(有)人形の甲申にて商売の基本を修得し、2001年(有)春華堂に入社。2005年に竣工され、現在は年間50万人以上の来館者を数える「うなぎパイファクトリー」の企画、立ち上げに携わり、浜松の産業観光スポット化に寄与。2010年には(社)浜松青年会議所第60期理事長に就任。200名のメンバーと「笑顔溢れるまち浜松の創造」に向け「人づくり」「まちづくり」に取り組む。

活動報告

2010 HAMAMATSU JUNIOR SHIP はままつ少年の船

乗船期間 2010年3月21日~23日

今年で20船目を迎える「はままつ少年の船」が、3月21日(日)から23日(火)の日程で行われ、無事に御前崎港に帰港いたしました。当初は悪天候のため、前日に出港地を清水港に変更するという苦渋の決断から始まり、船長からも「想像を絶する揺れになると思うので覚悟してください。場合によっては駿河湾をでない可能性もあります」といわれたことを思い出します。しかし、出航してみればウソのように天気が回復し、穏やかな航海となり、ほとんどの子供たちが体調を崩さずに研修にのぞめました。過去の少年の船をご存じの方によると、これまでの船と比べても折り返りの好天だったということです。そのおかげで、テーブル投げ、デッキランチ、今年から始めた日の出をのぞむサンライズクルージング、天体観測と、すべての行程を行うことができました。「2010はままつ少年の船」では、3つの新たな取組に挑戦しました。



つは、上述した「サンライズクルージング」。雄大な自然の中で、海から登る日の出を見て感動を味わおうという研修です。これを、自主研修としたところも工夫の一つです。やらされる研修ではなく、子供たちが自ら率先して「日の出を見たい!だから早起きする!」という自主性を養ってもらいたいという趣旨でしたが、たくさんの子供達が率先して早起きして参加してくれました。二つ目は、特別講師として海洋冒険家の白石康次郎さんに乗船していただいたこと。下船後「こんなに一日中働いた事ないくらいよく働いたよ!」とのコメントも頂きましたが、「将来的には自分も是非このような事業をやりたい」という嬉しい言葉も頂きました。子供たちも、そして私たち大人も、世界で活躍する白石康次郎さんから多くのことを学びました。そして三つ目は、「船上からのラジオ放送」です。FMハローさんに全面的なご協力をいただき、船内から生放送で子どもたちの声をお届けしました。「2010はままつ少年の船」として新しい取り組みにもチャレンジしながらも、過去に団員として乗船してくれた子が大人になってチームリーダーとして乗船してくれたり、去年子供が乗って楽しそうだったら親の自分がチームリーダーとして乗ってくれたりするなど、歴史と伝統を改めて感じます。そして伝統あるこの事業の重みと偉大さを感じています。



少年の船が終わったその日に保護者の方から電話があり、忘れ物か何かの連絡かと思ってスタッフが出ると、「来年の申し込みはいつからですか」という問い合わせだったそうです。こうしたことも、継続して行っている事業であるからこそで、また次に期待してくれる人がいるということです。先輩方から脈々と受け継がれてきたこの事業の精神とノウハウがあって初めて成り立っている事業だと改めて感じています。最後に、「2010はままつ少年の船」におきまして、様々な面でご協力を頂き関わっていただきましたすべての皆様に、委員会一同心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました!



はままつ少年の船 参加者の声

団員の声

団員 さん
新しい友だちと仲良くできてうれしかったです。いろいろなことで遊びました。けんしゅうでも、みんな、けんかもなく仲良くできて「みんなで、きょう力する事が大事なな」と、思いました。あさひをみたり、ゆうひをみたり、橋の下をくぐったり、いつもならできないことがたくさんできました。

団員 さん
今年初めて参加しました。初めは友だちができるか、不安でした。でもチームリーダーさんがみんなの世話をしてくれて、研修も楽しく、すぐに同じチームの子と仲良くなることができました。2泊3日、長いと思っていたけどたくさん研修をしているうちにあっという間に終わってしまいました。色んな事が思い出に残っていますが、いつもは見る事ができないぐらいたくさんの星をみる事ができて感動しました。もう中学生になってしまったので少年の船には参加できないけど大きくなったらチームリーダーとして船に乗りたいです。それまではままつ少年の船を続けてください。

チームリーダーの声

チームリーダー N.Sさん
今回の船は、波も穏やかで居心地の良い船でした。船上にいることを忘れる程の穏やかさは、酔いしない私にとっては物足りないような気持ちもありました。船上での生活を表現した団員の俳句は、どれも自由で素直なことばで表現されており、とても印象に残っています。今年は船上で、過去に私のチームの団員だった子どもに4人も再会できました。身長や顔つきが少し成長した彼らに再会できたことで、毎年楽しみに乗っている子どもたちの存在を再確認でき、非常に嬉しく感じました。

チームリーダー S.さん

少年の船にチームリーダーとして乗ると決まった時は期待で胸がいっぱいでした。でもその反面、自分一人で8人の子ども達を3日間預かり、しっかりとまとめられるかどうか不安でした。実際に、子ども達をまとめ、常に先の事を考えて行動するのは大変でした。でもその分、今まで自分に足りなかった部分もこの船で得られ、多くのことが学びました。大きな成長ができたこの研修に参加できて本当に良かったと思います。



活動報告

3月度例会 入会式

グランドホテル浜松 鶴の間



3月11日(木)19時~21時、グランドホテル浜松 鶴の間にて、3月度例会 入会式を開催いたしました。「奉仕」「修練」「友情」を基本に「明るい豊かな社会」の実現を共通の理念とする青年会議所運動に賛同する、前期入会希望者29名が入会いたしました。多くのメンバーが見守る中、ひとり一人、山崎理事長・望月直前理事長から入会承認証とJCバッヂを授与された後、新会員を代表して渥美洋平君が、「出会いを大切にしながら明るい豊かな社会の実現を目指して活動します」と抱負を述べました。また当日は2009年度に(社)日本青年会議所監事を務められた伊藤清郷先輩(郡山JC OB)に、「JCの魅力~新たな可能性に向けて」と題してご講演をいただき、目的達成のために妥協をせずに努力することの大切さを教えていただきました。

活動報告

第2回 献血推進活動

2010年 4月11日(日)



今年度、第二回献血推進事業を4月11日(日)に開催しました。今回141名の方に献血の申込みを頂き、そのうち104名の方に献血をして頂きました。ありがとうございます。(社)浜松青年会議所では1975年よりこの献血推進事業を積極的に行なっております。私たちが献血推進を35年以上呼びかけているのは、血液は人工的に作ることも長期保存することも出来ないものであり、医療機器等が日進月歩の進歩を遂げ設備は素晴らしいものが続々と開発されていても、その設備も輸血血液がなければまったく役に立たないものだからです。今後も地域の医療・福祉を支えるためにこの活動を行なっていきます。7月10月にも積極的に献血推進を行なっていきますので引き続き皆さんの御協力の程宜しくお願い致します。

事業案内

第39回 移動オーケストラ教室

2010年6月20日(日) 浜松市立城北小学校



6月20日(日)浜松市立城北小学校に於いて、移動オーケストラ教室を開催いたします。本年度で39回目を迎える移動オーケストラは、毎年各地小学校の体育館等に於いて(財)浜松交響楽団の演奏を聴き、実際に子供たちが指揮をとりながら音楽を体感していただく(社)浜松青年会議所の伝統的的事业です。移動オーケストラ教室の開催に興味のある方は、お気軽に(社)浜松青年会議所までお問い合わせください。

浜松青年会議所 新会員募集中



JCは「まちづくり」「ひとづくり」に一生懸命取り組んでいます。

会員の入会資格

- ① 青年会議所の目的と意義に共鳴し、自発的な意思と情熱を持っていること
- ② 浜松市及びその一円に居住する満20歳以上40歳未満の品格ある者であること
- ③ 最低月1回開かれる例会と委員会に出席できること
- ④ 健全な社会人としての教養と良識のある方で正常な事業に従事していること

お問い合わせ

社団法人浜松青年会議所 会員拡大委員会
〒432-8036 浜松市中区東伊場1-3-1 グランドホテル浜松内
TEL.053-454-6721 FAX.053-455-3563
E-mail: room@hamamatsujc.or.jp

ホームページもぜひご覧ください!
<http://www.hamamatsujc.or.jp/>

浜松JC

開催事業案内

2010年度の浜松青年会議所の活動の一部です。

こんな活動もしています!

活動報告

次世代創造フォーラム2010 ~夢を叶える7つの法則~

2月18日(木) 次世代創造フォーラム2010 ~夢を叶える7つの法則~ がグランドホテルにて行われました。当日には、一般市民約600名ご来場いただき、夢について多くを学べた講演になったのではと思っております。北原照久氏、奥山清行氏、山崎理事長、コーディネーターを努めて頂きました秋山雅弘氏から「笑顔が大事」「夢は口に出すこと」「小さな失敗をたくさんすること」「質ではなく量をこなすこと」「プラスの人にはプラスの人が集まる」「人生はやり直しは出来ない、でも直しは出来る」などの夢を叶える秘訣や持論、また印象深い言葉を数多く頂戴しました。ご聴講いただきました市民の皆様や、浜松JCメンバーの夢に向かう第一歩になっていただければ幸いです。ご協力いただきました方々には、深く御礼申し上げます。ありがとうございました。



北原照久氏



奥山清行氏



秋山雅弘氏

活動報告

若手経営者セミナー & 大名刺交換会



4月15日(木)グランドホテル浜松にて、「若手経営者セミナー&大名刺交換会」を開催しました。第一部セミナーでは、税理士法人坂本&パートナー代表・坂本孝司氏に「不況でも絶対に負けない中小企業の法則」と題して講演をいただきました。第二部の名刺交換会では参加者約200名が名刺交換を行ったほか、個人や会社のPRタイムにも積極的にご参加いただき、盛大に開催することができました。ご参加いただいたみなさま、ご協力いただいたみなさまありがとうございました。



200名以上が集まる 浜松最大級の異業種交流会

第1部セミナー
不況でも絶対に負けない中小企業の法則
坂本孝司氏
税理士法人坂本&パートナー代表

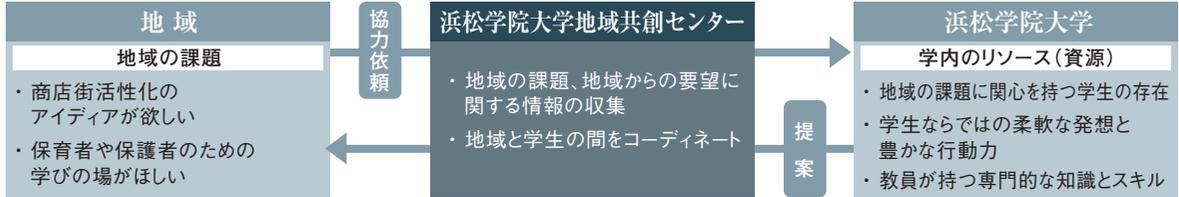
1956年浜松市生まれ
昭和56年に会計事務所を開設以来「会計で会社を強くする」を軸に活動。その間を評価され、中小企業庁「中小企業政策審議会」臨時委員、同「中小企業の会計に関する研究会」専門委員、経済産業省「財務管理サービス人材育成システム開発事業」委員を歴任。顧問先企業600社を超える日本を代表する税理士。

地域と大学をつなぐ

浜松学院大学 地域共創センター



地域共創センターが果たす役割



活動事例「スマイル・スポーツ」

提案先／大学近隣の小学生

笑顔をもっとにスポーツができる環境づくり

提案目的

学生が指導者となり、子どもたちにスポーツの楽しさを体験的に教えるとともに、社会性とコミュニケーション力を向上させる手助けができないか？

実践内容

- ・週2回行われるスポーツ指導の内容の企画、運営
- ・参加児童とノートを交換し、感想を次の指導にいかす
- ・夏季、冬季に行われる合宿

子どもの笑顔を大切に、スポーツを通して子どもの居場所作りを進めて来ました。

2008年10月にスタートしたスマイルスポーツクラブ、この3月で1年半を経過しました。この間100名を超える小学生が、浜松学院大学の体育館を拠点に、学生スタッフの指導の下、毎週月曜日と金曜日の夕方、4時30分から6時まで、体育館を所狭しと汗びしょりになって走り回っています。毎回行って来た鬼ごっこも子どもたちはすっかりルールを覚え、ケイドロ、鳥鬼、しっぽ取り、水鬼、3色巴鬼、UFO、ガッチャンなど、捕まえ役、逃げる役、見張る役、助ける役を楽しんでいます。1年生から6年生まで、一緒に遊べる運動はそうあるものではありません。鬼ごっこは、特別な用具を必要とせずに、仲間と協力することが随所に表れる遊びです。しかも、そこに学生が入っても少しも違和感がない。へたに手を抜こうものなら、あっさり子どもに軍配が上がってしまいます。しっぽ取りでも、足の遅い子はすぐにしっぽを取られてしまいがちですが、そこをチーム対抗にして、自分のしっぽがなくなっても仲間が取ってきてくれたしっぽをつければ復活できるというルールにして、少しでも一緒にプレーできるようにしました。すぐにとられてしまう子を横目に、すばしこい子は何度も相手チームのしっぽを取りに行き、チームの籠にしっぽを入れようと全力でプレーしています。そのうち「いつか自分もしっぽを取れるようになり、チームの役に立とう」という思いが芽生えてくるのではないのでしょうか。昨年夏には、はじめての合宿を行いました。西伊豆のやまびこ荘に2泊3日、学生と子どもだけで過ごしました。行きは、JR在来線、伊豆箱根鉄道、修善寺からは観光バスで、帰りは土肥から清水まではフェリーという。25°の温泉プールで好きなだけ泳ぎ、また氷のように冷たい仁科川で泳いだり、2時間かけて丹野平という頂上が360度開けた山に登り、夜はキャンプファイヤーをしたりしました。泊まった部屋は廃校になった学校の元教室に畳を敷いた大部屋で、子どもたちは20人一部屋で2日間を過ごしました。たった2日間でしたが、自分でできることは自分でしようとの合言葉で、病人も出ずに、たくましくなって浜松に帰りました。12月からは、親子スマイルとして、月一回土曜日に親子で遊ぼうという企画も増やしました。いつもはやんちゃな子どもも親の前ではいい子に変身するという驚きやお父さんが目一杯子どもとドッジボールに興じている姿など、とてもほほえましかったです。子どもたちにとって、学生はどんな存在だったのでしょうか。クラブの宿題でクラブノートを書くのですが、子どもから学生へのメッセージがだんだん増えてくるのを見て、すっかり溶け込んでいる関係がわかります。少々乱暴に接しても学生は怒らずに、余裕をもって接してくれる。また子どもを評価しない学生に安心して自分を出しているのがわかります。だから時には学生もフルパワーで力を見せつけることもあるのです。親でも、先生でもない、お兄さんのような存在は、子どもをわくわくさせるようです。いよいよ第3期スマイルスポーツクラブが4月より始まります。継続して参加している子どもたちが、クラブ集団をリードして行ってくれることを期待しながら、笑顔を絶やさぬ1時間半をこれからも大切にしていきたいと思えます。

詳しいお問い合わせは

浜松学院大学地域共創センター 浜松市中区布橋三丁目2番3号 tel.053-450-7003



編集後記 EDITOR'S NOTE

2010年度第2号となる「JC-wave5月号」はいかがでしたでしょうか？新年度がスタートしてから2月度公開例会・はままつ少年の船など様々な事業がございました。我々広報委員会としまして、「笑顔溢れるまち浜松の創造」に向けて、皆様を笑顔にするような情報を発信していきたいと思えます。次号は9月発行予定です。どうぞ宜しくお願い致します。

広報委員長／竹内一 広報委員会／石野順司、藤田真一、飯田康人、萩田智之、東秀行、岡島英樹、加藤守啓、仲山端也、山本昌義